

アドバンスト施設による次世代介護機器導入事例



医療法人 永寿会

優しい夢・遊ぶ夢・夢を育む施設
介護老人保健施設

ゆうむ

〒192-0153

東京都八王子市西寺方町2 8 4

施設：介護老人保健施設ゆうむ

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順 1 ～ 6）
- 導入に関わった職員が機器を活用して良かったと感じたこと
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

施設概要

運営法人	医療法人永寿会
施設名	介護老人保健施設ゆうむ
所在地	八王子市西寺方町 2 8 4
定員	100名
平均介護度	3, 0 9
職員数	72名
特徴	職員の定着率が高い 全職員：12年8か月 看護・介護職員：13年6か月



導入した次世代介護機器

メーカー名	パラマウントベッド
機器名	エスパシアシリーズ (KA-N1511J)
台数	100台



導入の手順

導入の6つの手順

手順 1	改善活動の準備をしよう	● 情報収集 ● 取組に対する組織全体での合意形成 ● 実施体制の整備
手順 2	現場の課題を 見える化しよう	● 課題の見える化
手順 3	実行計画を 立てよう	● 導入計画づくり ● 対象利用者の選定
手順 4	改善活動に 取り組もう	● 導入準備 ● 次世代介護機器の活用 ● 小さな改善活動
手順 5	改善活動を 振り返ろう	● 効果検証 ● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析
手順 6	実行計画を 練り直そう	● 実行計画の練り直し

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

手順 1：改善活動の準備をしよう

取組期間：1月26日～12月8日

手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

● 情報収集

- ・ インターネット、機器メーカー担当者との意見交換、東京都保健福祉財団のセミナー

● 取組に対する組織全体での合意形成

- ・ 現場職員を中心としたプロジェクトチームメンバーの立ち上げ
- ・ 利用者の事故防止、職員の介護負担軽減を目的とした介護機器の選定

● 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	事務長	統括責任者
2	看護部長	事務担当
3	介護士長	事務担当
4	介護リーダー	プロジェクトリーダー
5	リハビリ	リスク担当
6	介護スタッフ	運用・マニュアル・調査

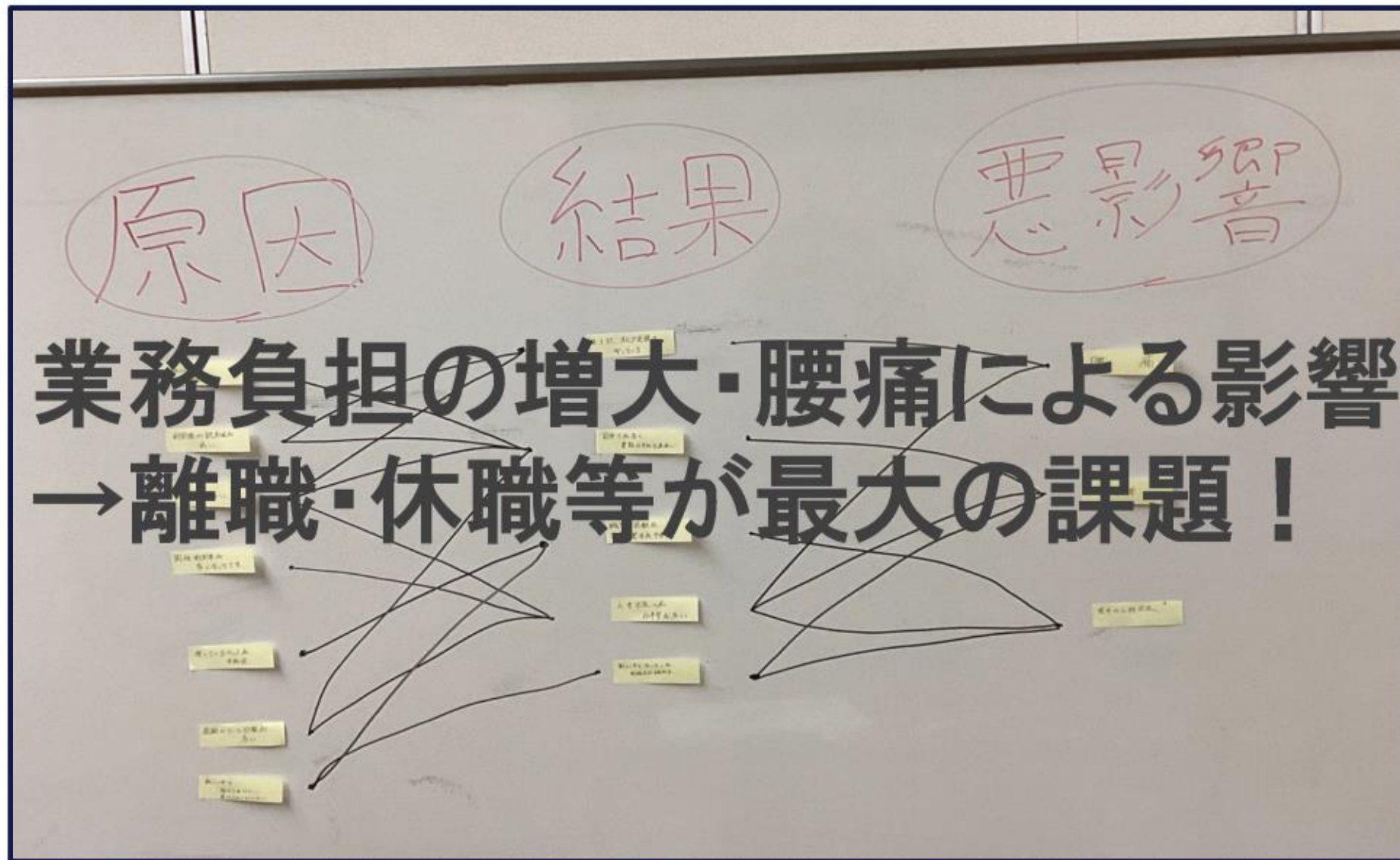
手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

取組期間 : 12月14日～12月20日

手順
2

- 課題の見える化

● 課題の見える化



手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

取組期間 : 12月14日～12月20日

手順
2

- 課題の見える化

● 課題の見える化



手順 3：実行計画を立てよう

取組期間：2月16日～12月8日

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 導入計画づくり

□ 課題解決に向けた道筋

- ・ 職員の高齢化、介助量の多い男性利用者の増加により職員の介護負担が増大している。
- ・ 令和3年度に眠りスキャンeyeを20台導入したが、職員からの聞き取りにて、台数不足、設置時に手間がかかる等の意見が挙げられた。足りない部分はフロア設置型のコールマットを用いているが、発報し訪室した時には既に転倒していたり、利用者が発報しないようにマットを跨いでしまい、かえって危険なケースも散見された。以上のことから、利用者の安全確保、職員の介護負担を軽減すべく今回の機器を選定した。

□ 導入する次世代介護機器

- ・ エスパシアシリーズ
- ・ こちあ利楽flow
- ・ マッスルスーツ エブリィ

□ 成果指標

- ・ 夜間の訪室回数が減少できる
- ・ 夜間利用者の起きだしによる転倒・転落の事故防止
- ・ 職員の肉体的・精神的負担が軽くなる

手順 3：実行計画を立てよう

取組期間：5月10日～7月2日

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 対象利用者の選定

□ 選定した利用者

- ・ 2F 24名 3F 22名を対象

□ 選定理由

- ・夜間起き出しによる、転倒リスクが見込まれる方を対象
- ・コールマットでは対応が間に合わない、もしくは避けて乗り越えようとし、転倒リスクに繋がる方

□ 選定する際に留意した点

- ・フロアカンファレンスにてコールマットでは対応が間に合わなかった方の確認
- ・ベッド上で起き上がってしまう方を、担当職員から聴取を行った

手順 4 : 改善活動に取り組もう

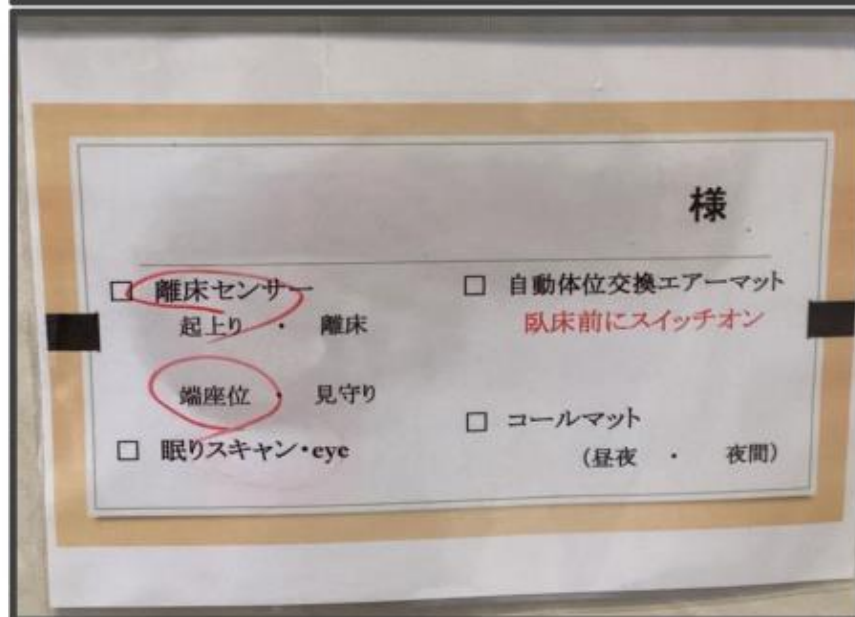
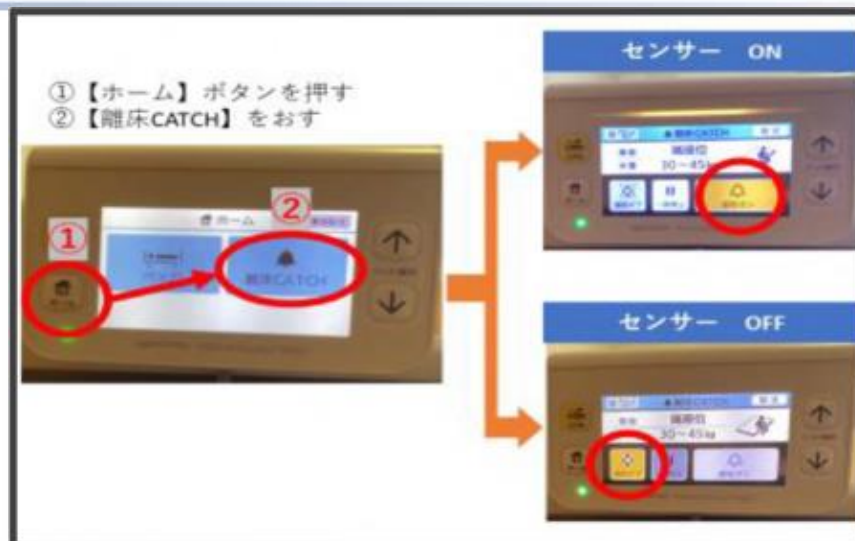
取組期間：1月12日～1月26日

手順 4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな改善活動

● 導入準備

- ・業者による取り扱い説明
(いつでも説明を閲覧出来るよう動画で保存)
- ・離床センサーの操作方法のマニュアルを作成
- ・職員個々へ操作説明の実施
- ・ベッドサイド及びベッドコントローラー付近に
職員が一目で分かるように個別設定方法を
貼り付け活用



手順 4 : 改善活動に取り組もう

取組期間：1月26日～3月14日

手順 4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな改善活動

● 次世代介護機器の活用

□ 「効果的に活用するコツ」

運用後、改善出来たことや新たな課題を見つけられる取り組みを委員会にて策定

- ・個々の職員への聴取・アンケートの実施
- ・委員会にてフロア間の情報交換

□ 「効果的に活用できなかった原因」

- ・ ベッドのセンサーの設定が「離床・端座位・起き上がり・見守り」と4パターンあるが、各利用者に合った設定が出来ていなかった事により、センサー反応回数が増え、訪室回数が増えてしまった

手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：3月14日～5月9日

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな改善活動

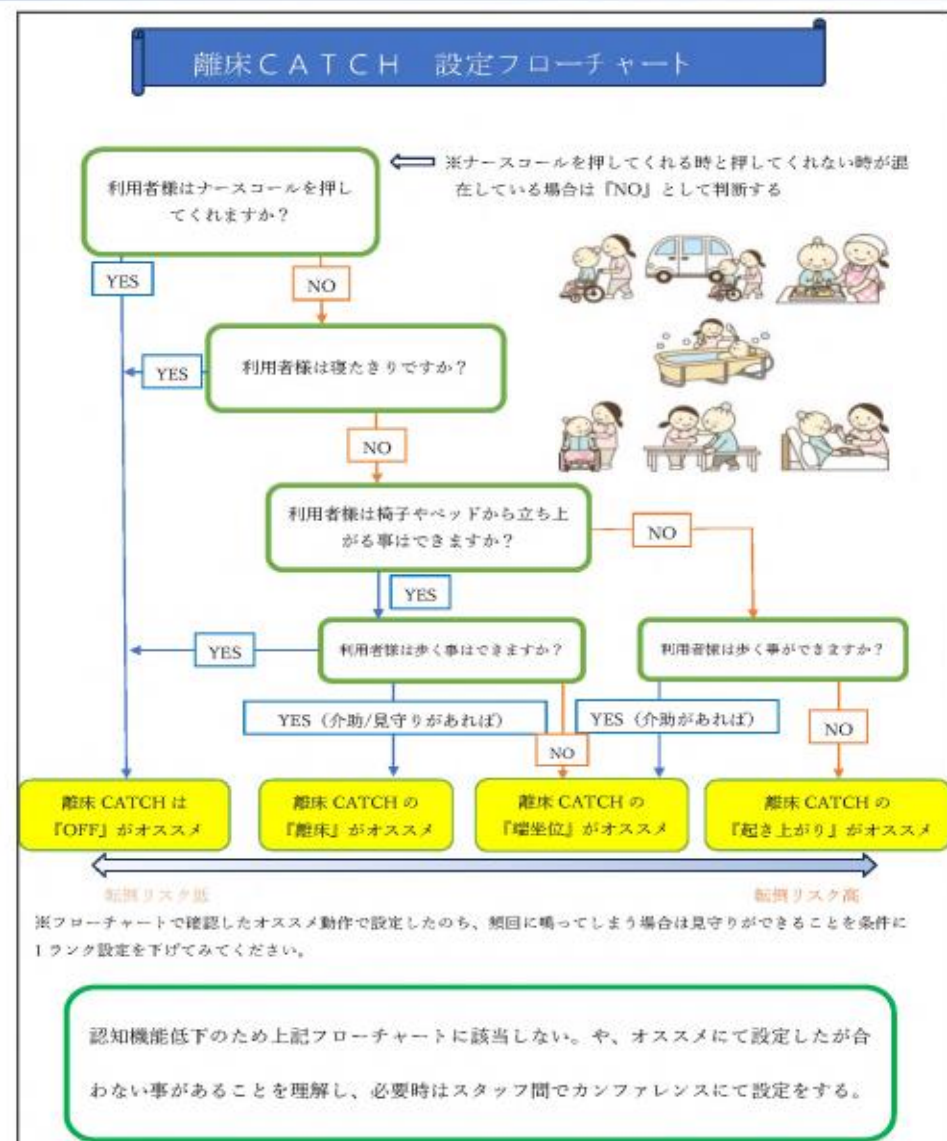
● 小さな改善活動

□ 改善活動の内容

- ・ 職員の設定のバラつきが出ない為に、離床CATCH設定方法の指標となるフローチャートを作成

□ 改善活動の共有方法

- ・ 連絡ノートでの周知
- ・ 委員会メンバーから各職員への説明



手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 5月10日～7月2日

手順 5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 効果検証

- ・夜間の訪室回数が減少できる

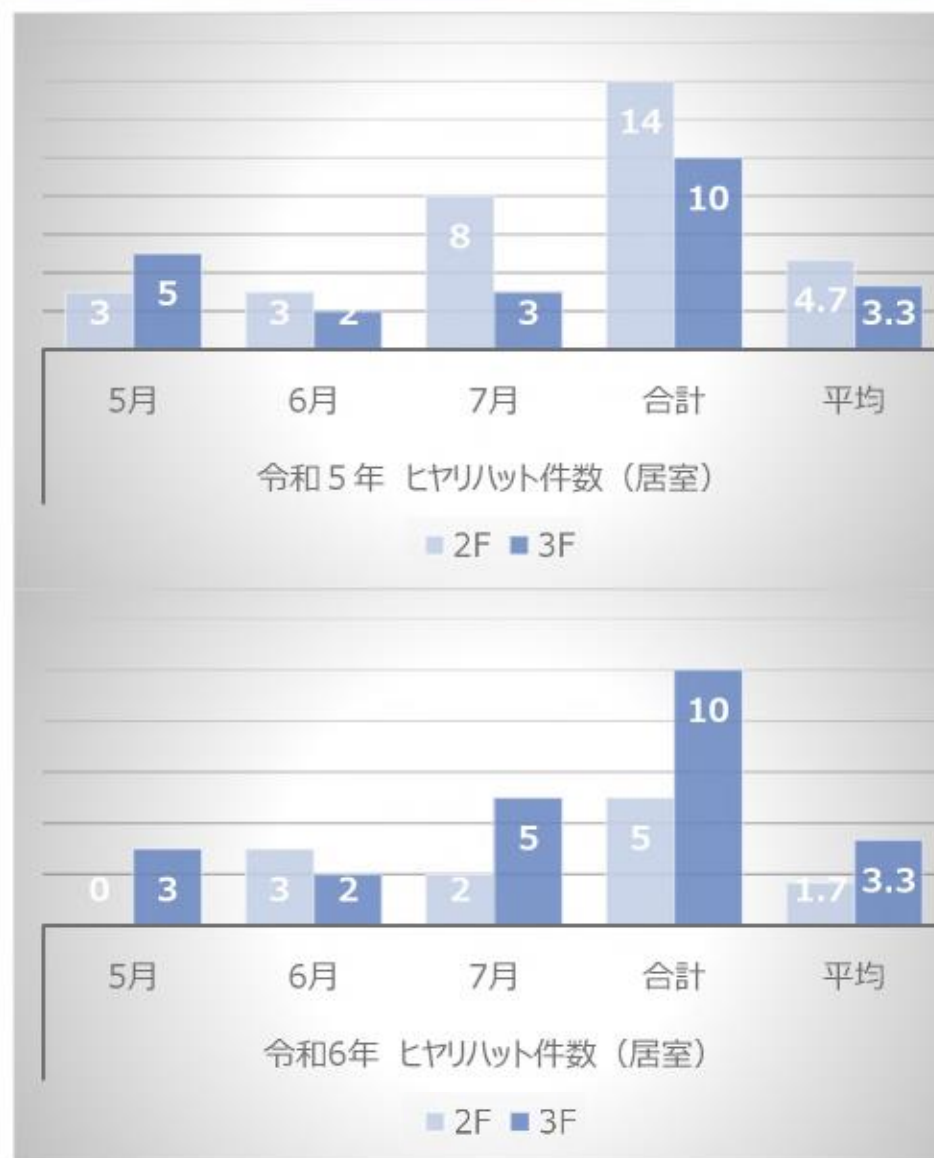
センサーの反応回数は増えるも、眠りスキャン・カメラと連動し見守りを行える様になった事により、**訪室回数の減少を図れた。**

→約20%の減少

- ・夜間利用者の起きだしによる転倒・転落の事故
防止機器を導入する前に比べ、ベッド周りの転倒・転落事故は**減少出来た。**

- ・職員の精神的負担減少

コールマットより事前の段階で対応することが出来るようになり、余裕を持った対応が可能になった。



手順 5：改善活動を振り返ろう

取組期間：5月10日～7月2日

手順 5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 上手くいった、いかなかった点の整理・分析

□ 上手くいった点・その要因

- ・ その人にあった設定方法を行えるようになった為、安全に対応できるようになった。
要因としては、改善の為にに行った取り組みが上手く行えた。
- ・ 眠りスキャン・カメラとの併用により、目視で確認することができ、余裕を持った対応が可能になり、職員の負担軽減にも繋がった。

□ 上手くいかなかった点・その要因

- ・ 利用者の状態が把握できない事があった。
→ エスパシアだけでは反応しきれない動作があった。
- ・ 利用者に対して適した設定を行えていないことがあった。
→ ベッドの設定方法の習熟度が職員によりばらつきがあった。

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間：5月10日～7月2日

手順 6

- 実行計画の練り直し

● 取組内容の見直し

□ Before

- ・ベッド臥床前にも、ベッド回りでの転倒が発生していた
- ・起き上がり時に間に合わず、ずり落ちてしまう事があった
- ・ベッドの設定方法の習熟度が職員によりばらつきがあった
- ・無駄なセンサーの反応があった

□ After

- ・ 夜間の訪室回数が減少できる
- ・ 夜間利用者の起きだしによる転倒・転落の事故防止
- ・ 職員の肉体的・精神的負担が軽くなる

導入に関わった職員が機器を活用して良かったと感じたこと

- 他機器と併用する事で転倒ハイリスク者の夜間の状態把握ができ、訪室回数を減らすことが出来た。
- 利用者に沿った設定により、ベッド周りでの転倒・転落の減少を図れた。

● 副産物として・・・

今まで手動で高さを調整していたが、電動になったことにより、高さ調整が簡易化し、オムツ交換、移乗介助時の腰への負担が軽減された。

職員から・・・「腰痛ベルトがなくてもオムツ交換が楽になった」
「ベッドの高さが簡単に調節できるようになったことにより、
移乗動作を安全、快適におこなえるようになった」

取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

- 導入時の職員への説明方法。フローチャート等の指標を作ることによって、理解度の統一を図る取組
- 各フロアにおいて、疑問・課題を聴取する委員会メンバーを配置し、会議の場で情報交換を図り、課題解決に繋げる環境づくり

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

今回エスパシアを導入したことで、訪室回数の減少、起きだしによる転倒転落の事故防止を図れたことにより、

- ・身体的負担が減った
- ・夜間不安を訴える利用者に対し、ゆっくりと傾聴をすることが出来た
- ・職員が事務作業をする時間が取れる様になった。

等の、利用者還元、職員の負担軽減に繋げることが出来ました。

当施設では職員の高齢化が進み、今後人材確保が難しくなると思われる中で、いかに皆さんに長く働いてもらえるかはとても重要な課題です。より良いサービスを提供するには人は不可欠であり、その人の負担を軽減するには介護機器はとても重要なものだと思います。

**ご清聴ありがとう
ございました**